

<研究成果の紹介>

香酸カンキツ「新姫」の品種特性

紀南かんきつセンター

1. 成果の内容

「新姫」は熊野市新鹿町で発見された香酸カンキツで、タチバナと日本在来のマンダリンとの交雑種であると推定されます。熊野市が品種登録の申請を行い、平成9年11月に種苗法に基づいて品種登録されました。

樹姿は直立性であり、樹の大きさは喬木性で、樹勢は中程度です。トゲは幼木期には見られますが、成木になると発生しません。

果形は扁球形で、果面は粗く、1果平均重は約30gになります。11月上旬から着色が始まり1月上旬に完全着色となり鮮やかな橙色になります。果皮の香気は多く、ユズとは異なる独特の香りがします。果汁の量は中程度で、果汁歩合は約30%です。種子は多く、1果当たり9個程度です。1月上旬には糖度は約10%、クエン酸は3~4%になります。12月以降随時収穫が可能です。

病害抵抗性は強く、虫害抵抗性は中程度と思われます。

着花性は非常に良いので、多収が期待できます。5年生幼木の樹高は約1mで、100果(収量3kg)程度の収穫が可能です。

2. 技術の適用効果と適用範囲

果色が良いので、ポット植えにして観賞用果樹として利用し、随時果実を収穫しながら料理に利用する方法が考えられます。焼き魚に果汁をかけたり、焼酎のお湯割りにスライスを入れたりする他、スダチ等と同様の利用方法が考えられます。

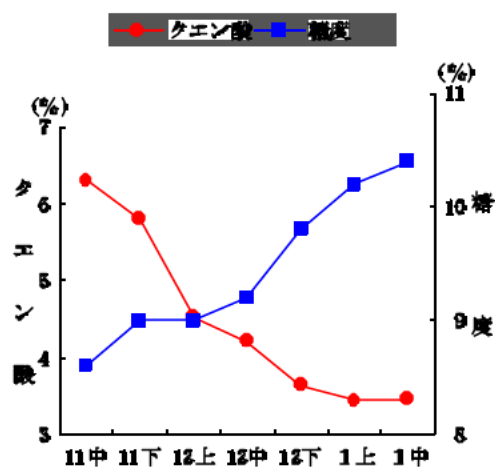
3. 普及・利用上の留意点

隔年結果性は低く、摘果は不要であると考えられますが、極端に着果数が多い(葉果比10以下)場合には、摘果をする必要があると思われます。

(前かんきつ担当 輪田 健二)



果色の推移



「新姫」のクエン酸と糖度の推移